

SDGs達成に向けた具体的な取組（要件2）

カテゴリ	非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																					
人権・労働		【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出身などによる差別を防ぐ教育体制や相談体制を整備し、差別がないことを確認している	基本	・雇用・教育・昇進・登用・福利厚生等のあらゆる条件で差別のない体制を作り、風通しのよい職場作りを図っている。					5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8	10.2 10.3					16.1 16.2 16.7			
		【ハラスメント禁止】 ・セクハラ、マタハラ、パワハラ等のハラスメントを防ぐ、ルール・教育・相談体制を整備している	基本	・社員教育の一貫として、あらゆるハラスメントの認識を共有し、未然防止となるよう努める 【予定】相談窓口の設置					5.1 5.2 5.5			8.5 8.8						16.1			
		【労働時間】 ・過度な長時間労働の防止に取り組んでいる	基本	・週・月・年単位での所定労働時間を把握し、農業の特性を生かした適正案件の工夫に努める ・長時間労働是正のための労働生産性改善と多様な働き方を許容する勤務体制の整備・対応を行う。									8.5 8.8								
		【外国人労働者】 ・外国人労働者に対する差別、人権侵害がないことを確認している	基本	・現在、外国人労働者はいないが、今後採用した場合は、個人面談等を実施し、差別・人権侵害の有無を確認する【予定】相談窓口の設置				4.4					8.7 8.8	10.2 10.3							
		【労働安全衛生】 ・作業中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる	基本	・作業前の安全確認と事故防止のための注意喚起、情報共有を可視化に努める 【予定】リスクマップの作成								3		8							
		【メンタルヘルス】 ・労働者のメンタルヘルスを良好に維持できるように対策に取り組んでいる	基本	・メンタルヘルスケアの正しい知識を理解し、社員の様子を確認する 【予定】定期的な面談の実施								3									
		【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材（女性、外国人、障がい者、高齢者等）が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる	基本	・多様な人材が働きやすい職場をめざす 【予定】業務ごとに多様な勤務体制・マルチタスク化の実施					5.1 5.5				8.5	10.2 10.3							
		【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している	基本	・【予定】職務に応じた研修会やセミナーへの参加を実施する					4	5.5				8	9						
		【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している	基本	・2020年4月の法施行に向けて、パートタイム労働法・労働契約法等の改正内容を理解し、同一労働同一賃金等の原則に沿った体制の整備・対応ができるように準備する						5.5				8.5	10.2 10.3						
		【健康経営】 ・従業員への健康投資による生産性の向上等に取り組んでいる	チャレンジ	・【予定】人間ドッグ・定期健康診断の受診率100%を目指す								3			8						
環境		【廃棄物】 ・廃棄物の管理を適切に行い、適切な処理に取り組んでいる	基本	・【予定】廃棄物の種類や量など、まずは現状を把握し、適切に処理するために台帳を整備する											11.6	12.4	14.1				
		【エネルギー・温室効果ガスの現状把握】 ・自社のエネルギー使用量、温室効果ガス排出量を把握している	基本	・電気・燃料費等の月別使用量を把握し、できるだけ削減に努める										7.3			13				
		【省エネ・温暖化対策の計画・取組】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる	基本	・持続性の高い農業生産方式に努める 【予定】土壌診断に基づく堆肥の適切な施用										7.2 7.3			12.4	13.3			
		【有害化学物質】 ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる	基本	・農業の適正管理と適切な使用に取り組む 【予定】台帳整備と管理責任者の設置							3.9		6.3			11.6	12.4				
		【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している	基本	・有機農業をはじめとした環境保全型農業の推進に努める 【予定】エコファーマー認定の取得									6.6						15		
		【3Rの推進】 ・リデュース、リユース、リサイクルに取り組んでいる	基本	・事務作業時のコピー用紙の裏面利用やプラスチック製品の利用削減を推進する													12.5	14.1			
		【水の管理】 ・水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる	チャレンジ	・農業用水路は皆平等の財産であるため、適切な管理を行う									6.4 6.6								

	非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																							
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17							
32	地域貢献・社会貢献	【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	基本	・地域の皆様との対話を大切にし、自社が与える影響は必ず社内で情報共有する					4								9		11	12			14	15		17		
33		【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	チャレンジ	・地域小学生へ「農業のしごと見学会」を実施している ・地域の防災活動に参画している					4											11				14	15		17	
34		【地域資源】 ・地域資源を積極的に利用（地消地産、地産外商）している	チャレンジ	・「村内循環」を目標に掲げ、産地と消費が近くなるように努める【予定】地産外商にも力を入れる。														8	9			11	12	13				
35	組織体制	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内でも共有している	基本	【予定】経営理念を明文化している・経営者の理念や、毎年の目標を社内全員で共有できる機会を設ける													8	9									17	
36		【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している	基本	【予定】コンプライアンス勉強会を行い、重要性を学び意識付けをはかる																								16
37		【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当、専門部署などの体制を整備している	基本	・各部署において、責任者を任命。環境については、全部署で情報共有・対応できる状態にする																								16
38		【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー（※）との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している（※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体）	基本	【予定】適宜ステークホルダーとの対話をはかり、弊社の理念やビジョンを理解をいただき共有をはかる																							16	17
39		【リスクマネジメント】 ・リスクを特定、評価し、マネジメントするプロセスを整備している	チャレンジ	事業全般においてのリスクを洗い出し、分析を行った上で、適切な対策が取れるようにする																								16
40		【社会的責任】 ・CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) の考えに基づき企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対して、責任を持った対応に取り組んでいる	チャレンジ	【予定】CSR活動をHPで公開する																								16
41		【事業継続】 ・事故や災害などの発生における事業継続計画を立案している	チャレンジ	【予定】事業継続計画(BOP)を勉強し策定する																9			11			13 13.1		16
42	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	チャレンジ	【予定】まずは足元の人材育成をしっかりと行い、事業継承できるよう検討していく														8	9									17	

上記以外で設定した取組項目

独自に設定したSDGsに資する取組	具体的な取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17										
【社会貢献・地域貢献】のひとつとして「くらし安心事業」に取り組む	農作業の季節ならではの特性を生かし、高齢者の方の様子等を見守り隊として機能させる			3																	11							

【記載留意事項】

・「取組レベル」の「基本」の項目のすべてに「具体的な取組」が記載されることが登録の必須条件となります。なお、今回の宣言に合わせて、今後、取り組む予定のものにあっても「具体的な取組」を記載いただければ登録が可能です。（今後、取り組むものについては、「具体的な取組」の前に【予定】と記載してください。）

・「非該当」欄については、「チェック項目」が事業形態上（個人事業主等）、該当しない場合にチェックし、その理由を「具体的な取組」欄に記載してください。

・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載してください。

また、取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等（※）を取得している場合は、その旨を併せて記載してください。

（※職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度、信州福祉事業所認証・評価制度、えるぼし認定、森林認証制度、森林CO2吸収評価認証制度、長野県産材CO2固定量認証制度、消防団協力事業所表示制度など）